

2002.12/14

天候>晴れ

気温>-1° ~5°

# AC.Ski & Snow Show

## 氷ノ山

メンバー  
大塚賢一 47才  
大本誠一 23才



今日は300年目を向かえる赤穂浪士討ち入りの日。今年は暖冬予報にも関わらず例年になく早々と冬型気圧になり都心でも雪を降らせている。豪雪地域の立山では車道のポール立てが追いつかずに四苦八苦している。また例年ならば12月の連休に山スキーヤーの初滑り情報が入ってくるのだが今年は11月から立山滑りの情報が入ってきている。しかし、所変わればここは播州・・・雪は降れどもまだゲレンデは人工降雪機のみとなっている。

今週は冬型配置になりビッグフィールド氷ノ山にも雪を降らせているだろう、天気予報は週末は幸運にも土日が晴れマーク！。山が誘いかけてくれている・・・しかしこちらの山の雪は湿雪で根雪も無いのでまだまだ山板を履くことは出来ない、今の雪遊びにはクロカンスキーとスノーシューが一番適応している。早速に計画をたてる。土曜日は氷ノ山へ・・・、日曜日は峰山へ・・・と。



ラッセルクロカン

6:40 645m ヤマメ茶屋着 0度

ヤマメ茶屋に行く細い道は昨夜降った雪で真っ白だ、スタッドレスがよく食いつく。

7:00 XCスキースタート。-1度、無風

いつもある車止めの雪のバリケードは無かったが念のために手前に駐車

する。

大本のおニューのXCセットは3万とは思えぬほど格好いい。今年から夏山、沢登り、クライミング、山スキー、XCスキーと全てが入門で先が楽しみなメンバーである。

XCスキーでの新雪での登りはテクニックより体力勝負であるので若さに任せてでガンガン私の後をついて来る。しかし先頭交代すればたちまち大バテで進まない。たかだかクルブシまで埋まるラッセルではあるが湿雪なので重いので、いたしかたないだろう。再び先頭交代で

ガンガン引っ張って登って行く。周囲の景色は杉に綿帽子をつけた巨大なクリスマスツリーだ。

8:45 1010m 坂の谷出合 装備変更スノーシュー -1度、無風

写真やビデオ撮り以外は殆どノンストップで終止ラッセルクロカンであった。頭や背中から湯

気を出してないが、気温がマイナスなので装備変更がトロイとたちまち体温を奪われてしまい、大本は指先がちぎれるように痛いっ！、言っていた。

板をスノーシューに履き変えて杉林の樹林帯を登って行く。深いところで膝までのラッセルでなかなか思うように進まない、雪の重みで多数の倒木に阻まれながら2度ほどルートを外れて腰まで埋まり右往左往してしまう。

9:55 1100m 杉林ティンバーライン

やっとのことで杉林を抜けた。視界が開けて真っ青の空が眩しいくらいだ。ミズナラやブナの影が白い雪面に写しだされ素晴らしいコントラストだ。自然に心がなごんでくる。

雪の重みで倒れかけの木を包容していると下界でのちっぽけなザレ事がウソのように癒され、大自然のパワーが吸収されるようだ。

12:15 1350m 三ノ丸雪原

高度を稼ぐに連れブナの巨木は雪花乱舞と化していく、素晴らしいの連続で写真やビデオ撮りで忙しい。

ブナの樹林限界を過ぎると三の丸の雪原だ、まだ



しだれ雪



巨大ブナ



雪原彷徨

完全には笹が雪で埋まっていないし、根雪になっていないのでスノーシューを履いていてもときどき腰まで踏み抜いてしまって非常に体力を消耗する。

13:15 1460 m 三の丸避難小屋  
ラーメンタイム

天窓が壊れていて小屋内に雪が吹き込み雪まみれになっている。ザックをおろしてジャンクションピークまで行くがガスが湧いてきて残念ながら氷ノ山山頂は見えない。晴れているが風が冷たいので小屋内の雪を溶かしての今シーズン初の雪溶かしラーメンはやはり格別だ。

14:05 下山開始

下山は今までつけて来たトレースを下るだけなので早いことこの上ない。

15:05 坂の谷出合



道へジープが入ってきておりそのワダチを利用してのスピード感あふれる滑りであった。

16:05 ヤマメ茶屋着

朝あった雪もすっかり溶けてしまっていた。

この日も19時から22時までクロネコのバイトを済まし、ジムで500m泳ぎ23時帰宅の長い充実した一日であった。

明日の峰山XCは雪不足でやむなく中止にする。

再び寒波が来ることを祈って・・・。



さあ、ここから楽しいXCスキーの滑りである。しかし、大本はこのXCスキーの滑りは恐怖の滑りになり登りより体力を消耗すると言っていた。まあそれだけにXCスキーの下りは難しいのである。途中から林

